

卒論・修論・ゼミ報告書

平成 30 年 4 月 17 日

指導教員認印

学科・専攻	情報システム工学	学籍番号	1855001	氏名	麻生到
題目	信号処理における機械学習的クラスタリング手法を用いたシステムの開発				

報告日までの取り組み

PDCA サイクル	設定目標 (P)	脳波を用いて、じゃんけんの勝率を 6 割を目標とした
	取組内容 (D)	<p>卒論で用いた手法との違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前処理 高速フーリエ変換を行う前に窓関数（ハミング・ブラッドマン（予定））を施した PCA、LDA、PCA + LDA の 3 パターンを施した場合の比較 ・機械学習 ランダムフォレストだけではなく、SVM とナイーブベイズ、K-mean を用いて精度検証を行った 精度は悪かったが、ディープラーニングを用いて精度検証も行っている 国際学会の論文の作成開始（はじめにの部分） 論文の閲覧 <ul style="list-style-type: none"> ・北原鉄朗、後藤真孝、奥乃博、音高による音色変化に着目した楽器音の音源同定:F0 依存多次元正規分布に基づく識別手法 ・森山剛、斎藤英雄、小沢慎治、音声における感情表言語と感情表現パラメータの対応付け
	課題整理 (C)	学会の論文の内容が脳波ではなく、信号処理という幅広いテーマなのでどのような構成にしていたら良いか悩んでいる
	改善方策 (A)	音声や時系列データなどの信号処理の論文を例として適用手法や事例などを述べてから、自分が用いた手法について述べ、その後実験内容と結果といった流れで作成しようと考えている

報告日

やることを より、やることを やりたいこと、 やるべきことを やることを	コメント (出席者)	
	備忘録 (自分)	